

---

# 赤い鍵

サシミ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

赤い鍵

### 【コード】

N8886C

### 【作者名】

サシミ

### 【あらすじ】

赤い鍵を拾った男。鍵が彼を呼び寄せたのか…

鍵を見つけた。赤い鍵。街中で。

自分の他には、誰もいなかった。だから拾った。すぐに捨てても良かったが、何故か捨てる気が湧かない。拾った直後から、妙にしつくりくるのだ。鍵の先端を爪でかきながら、自分の部屋で時間を潰す。

赤い鍵：鍵があるなら開けられるものがあるということだ。

次の日、俺は昨日歩いた道を注意深く見てまわった。……………。  
特に何もない。

謎の老人

「あなた…その鍵どうなさった？それはなあ、ワシのじゃ！返せ！返せええ」

俺の左手に納まっている鍵を舐めるように見ながら、その老人は俺に掴みかかってきた！俺は……………その老人を軽くあしらい、無視をした。力で勝る俺に老人は、何も出来なかった。

最後、老人は俺の背中に何かを投げつけてきた。少しイラッとしたが、俺は無視をした。

何日か過ぎ、俺はすっかり鍵のことを忘れていた。

「昨夜未明、〇〇〇で老人の変死体が発見されました。外傷はなく

テレビを見てみると、ニュースが流れた。

あの時の変な老人だった。死んだのか？……………どうせ、薬でもやっていたんだろう。

俺は、何気なく視線をテレビから逸らした。別に俺が悪いわけじゃない。責任を感じる必要なんてない！なにも。

視線の先に飛び込んできた。あの鍵が。変色もせず、その赤はむし

る濃くなっているようだっただ。

改めて見ると、気持ちの悪い鍵だ。俺は、どうしてこんな鍵を持っていたのか。今から考えると不思議だった。

俺は鍵を握りしめると外に出た。コンビニまで行き、ゴミ箱に捨てる。

と、同時に目眩がした。俺は立つことが出来ず、その場にうずくまる。

なん、で?... いったい... ちく... しょう...

「昨夜未明、〇〇のコンビニエンスストアの前で男性の変死体が発見されました。外傷はなく...」

警官

「こいつは、酷いなあ。ふう〜」

検察官

「ええ、私もこんな遺体を見るのは初めてです。男性の左手を中心に血管が裂けていました。どうしたら、こんなことになるのか...」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8886c/>

---

赤い鍵

2010年12月20日00時50分発行